

平成25年度米子市歴史館運営委員会議事録概要

開 会 （ 1 5 : 0 0 ）

（杉本委員長）皆様、お疲れさまです。本日の大きな議題は、平成25年度の事業報告、平成26年度の事業計画ですが、それに加えて山陰歴史館の整備計画についての概況説明があるかと思しますので、協議のほうをよろしくお願いいたします。早速ですが、議事に入りますので、平成25年度の事業報告を山陰歴史館からお願いします。

（国田館長）山陰歴史館は、地域の文化、特に歴史的、民俗的な資料を一般市民に提示し、利用していただくことを目的として運営しています。運営の大きな柱は4つあり、展示事業、視野を広げるための他の施設との連携事業、児童生徒の教育の場の提供、そして資料の収集と整理です。資料の整理については、現在、紙の資料をパソコンに取り込む作業を進めています。また、日頃から学芸員の資質を高めるよう努めていますが、本日お配りした紀要の発行もそのひとつであり、来年度も引続き行なう予定です。事業の詳細は、副館長の笹尾が説明いたします。

（笹尾副館長）本日の資料は1月末時点での集計を行なったものですが、現在「写真で見る米子の歴史」という展示を行なっており、3月2日から3月19日の間に約450人の方に入館いただくという盛況です。この展示は3月30日（土）まで行なっています。次に、子どもたちへの歴史の教育普及についてですが、平成25年度は1月末時点で米子市内外の小中学校18校、801人の利用があり、2月、3月にもう少し利用者が増える予定です。各小学校とも3年生を中心に社会科見学に来て学習していただいています。それと併せて民俗資料の学校への貸し出しも行なっています。主な教育普及事業としては、楽しみながら歴史を知っていただくという考えで、鳥取県と連携して法勝寺電車廃線跡ウォークを行ないました。また、主な鑑賞事業としては、市内史跡を活用した野外コンサートという形で、文化ホールと連携して米子歴史絵巻を行ないました。以上です。

（杉本委員長）次に福市考古資料館をお願いします。

（小原館長）福市考古資料館と埋蔵文化財センターは、米子市教育文化事業団の埋蔵文化財調査室も併せて一体的に運営しています。3ページを見ていただくとよくわかるかと思いますが、館長は非常勤、学芸員は兼務という職員体制で、発掘調査と併せて、これらの管理運営を行なっています。3ページの4の事業計画は平成24年度ではなく平成25年度の誤りですが、基本的には、原始・古代史を学ぶ機会の提供、埋蔵文化財資料の整理・保管研究、情報発信、連携事業の促進という4つの目標を掲げて、具体的には4ページに

あるような事業を行なってきました。実施状況については、5～9ページを、全体の活動状況については、10ページを見ていただければと思いますが、白鳳の丘展示館との共催事業を除いて、2月末時点での利用者総数が約3,500人となっています。対象を埋蔵文化財に特化していることと交通の利便性の悪さから、なかなか利用者が増えない。できることなら、いろいろな地域の小学生等に来ていただき、原始古代の学習をやっていただきたいという思いがありますが、来られるのは地元の尚徳小学校のみというのが現状です。

(杉本委員長)次は上淀白鳳の丘展示館をお願いします。

(長谷川副館長)組織体制は前年と変更ありませんが、入館者数については、リニューアル効果がなくなってきた分、減少傾向にあります。事業の方は、館単独の事業だけでなく、周辺史跡と一体となった事業展開も行なっております。主な事業は、表にある通り、大きく分けて7つの事業という形で、いろいろな連携事業、館内でのミニ企画展、特に25年度は妻木晩田遺跡と連携し、上淀廃寺をテーマにしたトークブレイスといった事業も行なっております。小さな展示館ですが、いろいろな課題を抱えており、館として機能していくにはもう少し時間が必要かと考えています。

(杉本委員長)3館から事業報告がありましたが、何か質問がありますか?ないようですので、次は平成26年の事業計画を山陰歴史館からお願いします。

(笹尾副館長)基本方針は、先ほど館長が申し上げたとおりですが、具体的な事業計画としては、まず、企画展を資料にあるような形で計画しています。企画展「音を奏でる(仮)」の連携事業として、昨年は粟島神社を会場に行なった米子歴史絵巻を今年は市指定史跡清洞寺跡で行なう予定で、併せて、音楽関連の講演会も予定しています。それと、長く継続してきた事業で、昨年、第40回の節目を迎えた郷土の歴史教室の第41回目を開催し、子どもたちに社会科の学習をしていただきたいと考えています。また、紀要についても、引続き発行し、学芸員が知識を深めていければと思っています。

(杉本委員長)次に福市考古資料館をお願いします。

(小原館長)事業計画自体は25年度とそれほど変わりありませんが、先ほど課題として申し上げたように、なかなか来ていただけないので、こちらから出かけていって利用していただくことに頑張っていきたいと考えています。具体的な事業計画は、資料にあるとおりですが、昨年、教育委員会と共同で、勾玉づくり教室に12校出かけたような外に出理解を求めていくということを継続していきたいと考えています。

(杉本委員長) 次は上淀白鳳の丘展示館お願いします。

(長谷川副館長) 組織体制は25年度と同様です。事業計画については、これまで培ったノウハウや実績を活かしながら、事業を行なう考えですが、基本方針に掲げている「ソフト事業の積極的な実施」に関しては、先ほど埋蔵文化財センターも言われたような、ただ待つだけでなく、積極的に出かけていく事業として、公民館に重点を絞った出前講座を計画しています。今月に入って、資料に添付しているチラシを公民館26箇所届け、積極的に活用していただくよう働きかけており、すでに何箇所かの公民館から問合せをいただいています。それと集客状況を見ると、近辺の方が多いですが、さらに広範囲から多くの方に来ていただくために広報活動の充実も重要な課題だと考えています。主な事業の基本的な枠組みは、昨年と同様ですが、いくつか具体的に説明いたします。まず、よどえ古代まつり参加事業ですが、昨年、復元壁画の原画を1日限定で公開したところ、大変好評だったので、今年も古代まつり際には、復元壁画の原画を展示することを考えています。妻木晩田遺跡連携事業といたしましては、昨年、県と市が共同で作成したパンフレットは、非常に好評なので、年度末に増刷し、これを活用してエリア全体のPRに取り組んでいきたいと考えています。次に、ミニ企画展ですが、館内はそんなに広くはないですが、今年は古墳をテーマにしたものを考えています。伯耆古代の丘情報発信事業については、パンフレットを活用して関西、関東などに働きかけるような広報活動を中心にエリア全体の情報発信に努めていきたいと考えています。最後に、これまでは取り組みが少し弱かった淀江エリア魅力アップ事業ですが、今年上淀廃寺跡を活用した事業を計画しており、具体的な計画が出来た段階で関係課とも連携を取りながら、事業をやっていききたいと思っています。

(杉本委員長) 3館から事業計画の説明がありましたが、何か質問がありますか？

(原委員) 山陰歴史館の事業計画の2の重点施策の(1)ですが、紀要の発行は非常に喜ばしいことで、今後も継続していただきたいと思います。最近、大学の紀要はPDF化して、ホームページで大体ダウンロードできるようになっており、全国の方々に見ていただくためには、権利問題等を調整したうえで、同様にPDF化して誰でも見られるように公開したほうがいいと思います。どの施設でも紀要の書き手が減ってきているうえに、館内の学芸員だけでやっていくのは無理があるので、外部への原稿依頼や論文掲載の公募をすることが出てきます。そういった場合に掲載の可否についての審査をどうするかという問題が出てきますが、歴史館紀要の規則はありますか？

(国田館長) 紀要については、規則はありません。

(原委員) そうすると、編集委員会形式にするか、編集委員の人選をどうするかといったことも含めて、紀要の規則なりをきちんと決めておかないと長続きしないと思いますので、制度の整備も併せて検討いただきたいと思います。

(国田館長) わかりました。

(杉本委員長) 他に質問がありますか? 無いようですので、この事業計画に従って26年度事業を実施していただきますようよろしくお願いいたします。次に山陰歴史館の整備計画について事務局から説明をお願いします。

(下高課長補佐) 平成12年頃に一度、山陰歴史館の整備計画が立ち上がり、予算化もされた経緯があります。そのときは、全面改装ということで、費用的にもかなりの規模の予算でしたが、市の財政難ということもあり、一旦中止になり、現在に至っています。そのとき以降も山陰歴史館の整備事業を再浮上させようと努力してきましたが、やっと昨年10月に策定された伯耆の国よなご文化創造計画の後期計画の中に山陰歴史館の整備事業が盛り込まれました。そのテーマはお配りした資料にありますが、「米子市の歴史館として、・・・」です。スケジュールとしましては、平成27年度に基本設計、平成28、29年度に実施設計及び工事を行なうという計画を立てています。中身としましては、市文化財としての米子市役所旧館を後世に伝えていくとともに建物としての使用もきちんとできるような建物の保存整備と、その中に入居する歴史を学ぶ場としての山陰歴史館の機能面の整備という2本立てで整備事業を進めていくことを考えています。今後、26年度には構想を固めて、27年度以降の設計及び工事に向かうという考えでいます。今日の段階では中身についての具体的な話はまだできませんが、先月、群馬県の昭和庁舎を視察に行きましたので、今後、山陰歴史館の整備のご意見を伺う上で参考になればということで、その概要を紹介させていただきます。

資料に写真を付けていますが、これが前橋市にあります群馬県庁の隣にある昭和庁舎です。平成11年まではこれが県庁として使われていました。現在の県庁は、写真の後ろに聳えている33階建て、153mの建物で、都道府県の庁舎としては東京都庁に次ぐ全国で2番目の高さを誇ります。昭和庁舎は、現在は展示館など多目的に活用されています。昭和庁舎は、昭和3年に早稲田大学の佐藤功一の設計で作られましたが、設計者が同一であるため、米子市役所旧館と外観はそっくりです。ただし、規模が違っており、両者とも3階建てですが、昭和庁舎は延床面積が、6,464㎡、建坪が、2,082㎡であるのに対して、米子市役所旧館は延床面積が、2,036㎡、建坪が、684㎡であり、昭和庁舎の約3分の1の規模の建物です。建築年は昭和庁舎が昭和3年、米子市役所旧館が昭和5年と同じ時期ですが、工事費も、前者79万円に対して、後者は22万円弱と約3分の1です。昭和庁舎は平成13年に16億円をかけて、耐震補強、タイルの前面張替え、西壁面の復元、エレベ

ーター設置、トイレ作り替え、全館バリアフリー化などの整備が行なわれました。写真が建物の外観ですが、米子市役所旧館とそっくりで、写真の庇の裏の四角い装飾は、米子市役所旧館にも施されています。昭和庁舎は外壁の窓と窓の間に様々な装飾が施されていますが、そういった部分も復元されています。写真の窓は、新しく入れ替えられていますが、当時の仕様の観音開きの窓になっています。米子市役所旧館も、現在は上下に上げ下げする仕様になっていますが、以前は観音開きだったと思います。写真の外灯も復元されています。前面はタイル張りの建物ですが、裏側は写真のようなコンクリート壁で、米子市役所旧館も同様です。裏側には、写真のような付設部分もあります。写真のように天井も復元されており、米子市役所旧館も今の天井をはぐれば、同じようなアーチ状の柱のある天井が出てくるものと思われます。写真のように階段も米子市役所旧館とよく似た構造をしています。写真以降は内部をどのように使用されているかですが、写真は群馬県出身で功績のあった方々の写真が展示されています。その隣に学習室が設けられており、写真のように一クラスが勉強できる部屋になっています。その他、多目的室、NPO法人などのボランティアが集う部屋などが設けられ、NHK文化センター、パスポートセンター、喫茶店などが入居しています。

山陰歴史館の整備は、米子の通史を学べる施設とするのが基本線ですが、中心市街地に位置することから、集客等に寄与していくという使命もあり、今後の整備の参考になればということで紹介させていただきました。

(原委員) 市文化財の米子市役所旧館を保存活用していくことは素晴らしいことで賛成ですが、それを山陰歴史館という博物館類似施設として使用することには慎重になるべきだと思います。現在、博物館は、博物館専用の建物を建てるのが原則となっており、市庁舎等の他施設からの転用というものもないわけではないが、本格的な博物館ではほとんどありません。群馬県昭和庁舎は、油絵の展示もあり、美術館としても使用されているようですが、山陰歴史館には形や質(紙、板など)が多様なものがあり、そういったものの収蔵庫を確保できるか気がかりです。費用的な問題もあるのですが、あえて今の博物館の流れに逆行するような選択肢を選ぶというのはやむを得ない事情があるのですか？

(岡課長) 山陰歴史館整備につきましては、予算的な問題等もあり、新たに博物館を建てるということにはなりにくい状況です。そういった中で、山陰歴史館が米子市役所旧館の中に入っていて、立地を考えると米子の歴史を学ぶには非常にいい場所にあるのではないかとということもあり、設備が十分でないなどの建物の機能面を改修しつつ、現在の建物に歴史館機能を持たせていきたいという方向で考えています。

(原委員) 今後、山陰歴史館は博物館法に基づく博物館を目指すのかといった、山陰歴史館のコンセプトを決めたうえで、米子市役所旧館という建物のあり方を考えるべきだと思います。

います。

(下高課長補佐) 原委員のご意見はごもっともで、現状を推し進めてどっちつかずの状態になることは恐れていますが、少なくとも現在の収蔵品を減らし、空いたスペースを他の用途に使いたいという考えがあり、現在の収蔵品をどこに運ぶかといった問題も併せて考えていく必要があると思います。

(国田館長) 本来は、「米子市の歴史館として、・・・」という基本理念を前提に容れ物を作るのが筋ですが、経済的な理由や立地条件などにより、それが難しいので、容れ物は現在のままで、できるだけ中身をそれに合わせていくことが今後の課題だと思います。そのためには常設展をどこでやるかといった具体的なことを考えながら設計をしていただきたいと思います。

(杉本委員長) 山陰歴史館の前身である山陰徴古館が昭和15年に淀江から米子の西伯郡物産館に移ってきて、山陰歴史館は設立されました。戦時中は建物を医大に引き渡し、閉館していましたが、小原家長屋門が寄贈されたことで、長屋門に移りました。その後、昭和59年に新市庁舎が建設され、旧庁舎が空いたことで、現在の建物に移りましたが、その際は、やっと歴史館が安住の地を得たという思いで非常に喜びました。原委員のご意見はごもっともですが、新たに建物を建てるのは予算的にも難しく、過去の長い歴史から見ても現在の建物で満足しています。以前、いったん歴史館整備事業が予算化されたものの、凍結に至ったという経緯もあり、このたび文化創造計画後期計画の中に歴史館整備が盛り込まれたことは非常にうれしいことで、エレベーターや洋式トイレの設置、雨漏り補修、50人規模の学習室の設置などを希望します。また、裏の新館が取り壊されれば、バスが入るようになり、駐車場も確保できればさらに利用しやすくなると思います。それと名称ですが、山陰歴史館のままでいいですが、個人的には米子歴史館なり米子博物館なり、米子の名前を入れた方がいいような気はします。

(国田館長) 博物館と歴史館では規則にどのような違いがありますか？

(原委員) 博物館は博物館法に基づく施設ですが、歴史館には歴史館法といったものではありません。

(杉本委員長) 博物館法の基準を満たさないと他の博物館からいい作品を貸してもらえないなどの不都合がありますが、山陰歴史館は空調などの設備面からも博物館法の基準を満たすのは困難だと思います。

(福代委員) 山陰歴史館が入っている米子市役所旧館という建物は、現在、市の文化財ということですが、今後、指定のレベルアップを見据えて、例えば、外部の建物は保存するにしろ、中身の活用は所有者の意思が尊重され、空調やエレベーターを取り付けることはできると思われる国登録文化財のようなものを目指すのか、あるいは、建物自体を古いまま文化財として残すのかといった選択が必要になってきます。また、歴史館には膨大な文献資料があり、要望があれば、公開されないといけないと思いますが、そういったスペースも必要になってくると思います。そういった今後の方針を検討する場を改めて設けていただきたいと思います。

(下高課長補佐) 建物を後世に伝えていくうえで、福代委員が言われたようなことを今後、検討していく必要があると思います。今後、いろいろな場を設けて、多くの方々のご意見を聞きながら考えていきたいと思っています。

(原委員) 私自身は、建物を新たに建てることに拘ります。というのは山陰の都市の中で、なぜ米子だけできないのか、実際問題として比較検討することもあります。こういったものを作るかはともかく、そういった方向性も残しておくことは必要だと思っています。米子市役所旧館という建物自体に非常に価値があることは、皆さんご存知ですが、個人的な意見としては、建物自体で売っていくことができる貴重な観光資源だと思っており、喫茶店が入るくらいの利用は構わないですが、建物自体の保存に主眼を置くべきだと思います。そして、本物の博物館を作ることも目指すべきです。

(岡課長) 他市の状況等も調べて、米子市としてできることできないことを整理して、今後、こちらで検討した内容を報告していきたいと思っています。

(安江副委員長) 資料は研究のために必要で常に身近にあることが望ましいですので、新館が取り壊されることになるなら、その跡地に、課題として挙がっていた収蔵施設や研究施設を付設していただきたいと思っています。また、原委員の言われるような専用施設の建設も、今すぐには無理でも将来の目標として取っておいていただきたいです。

(岡課長) 収蔵施設をどうするかといったことも歴史館の機能面と併せて検討していきたいと思っています。

(杉本委員長) 耐震補強に関しては、あまり大きな鉄骨などを取り付ける必要はないと思いますが、いかがですか？

(下高課長補佐) 米子市役所旧館は耐震基準についての数値はいいほうで、構造的に耐震

は優れています。大規模な耐震補強は必要ないと思います。

(杉本委員長) 山陰歴史館整備については、今後も審議を重ねていき、われわれ委員の意見を集約していきたいと思います。本日は長時間審議いただき有難うございました。

閉 会 (1 6 : 2 0)